

2020年3月5日

主催 (公財) ミズノスポーツ振興財団

共催 (公財) 日本スポーツ協会

(公財) 日本オリンピック委員会

## 「2019年度 ミズノ スポーツメントール賞」受賞者決定

(公財) ミズノスポーツ振興財団では、(公財) 日本スポーツ協会、(公財) 日本オリンピック委員会と共催で、1990年度から「ミズノ スポーツメントール賞」を制定しており、2019年度で30回の節目の年となりました。この賞は、我が国の競技スポーツおよび地域スポーツにおいて選手の強化・育成ならびに地域スポーツの普及・振興に貢献した指導者を顕彰するとともに、優秀な指導者の育成を目的に制定したものです。

3月5日(木)、グランドプリンスホテル高輪で選考委員会を開催し、以下の通り、受賞者を決定いたしました。

なお、この「ミズノ スポーツメントール賞」の表彰式は、4月21日(火)にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

### 【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】(トロフィー、副賞200万円)

鈴木 陽二 氏 (日本水泳連盟/セントラルスポーツ株式会社 常務取締役・競技強化部長)

### 【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】(トロフィー、副賞各100万円)

武富 豊 氏 (日本陸上競技連盟/株式会社天満屋 女子陸上競技部監督)

佐々木 美行氏 (岡山県スポーツ協会/スケート コーチ)

三枝 啓巳 氏 (日本障がい者スポーツ協会/車いすバスケットボール 公認障がい者スポーツ指導員、公認スポーツコーチ)

### 【ミズノ スポーツメントール賞】(トロフィー、副賞各50万円)

永井 祐司 氏 (日本ホッケー協会/ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社 ソニーHC BRAVIA Ladies 監督)

木村 典代 氏 (日本卓球協会/高崎健康福祉大学 健康福祉学部教授/スポーツ医・科学委員会 委員・栄養部門責任者)

菅原 智恵子氏 (日本フェンシング協会/女子フルーレコーチ)

永島 宏泰 氏 (日本クレイ射撃協会/JOCアシスタントナショナルコーチ)

小澤 秀樹 氏 (神奈川県体育協会/陸上競技等 スポーツドクター)

藤原 三郎 氏 (山梨県スポーツ協会/スポーツ全般 スポーツドクター)

梅景 康裕 氏 (滋賀県スポーツ協会/野球等 ジュニアスポーツ指導員)

藤井 久美 氏 (山口県体育協会/剣道 コーチ)

釜 辰信 氏 (熊本県体育協会/空手道 コーチ)

詳細は別記の通りです。

## 記

名 称 : 2019年度 ミズノ スポーツメントール賞

目的及び  
選考基準 : 過去継続して我が国における優秀選手の育成に努めた指導者およびその周辺の指導者、ならびに長年にわたり継続して地域スポーツの振興に尽力した指導者の顕彰

選考委員 : 委員長 山下 泰 裕 ((公財)日本オリンピック委員会 会長)  
委員 上 治 丈太郎 ((公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会  
組織委員会 参与)  
〃 大 野 敬 三 ((公財)日本スポーツ協会 常務理事)  
〃 ヨーコ セッターランド ((公財)日本スポーツ協会 常務理事)  
〃 佐 藤 直 子 ((公財)日本スポーツ協会 監事)  
〃 福 井 烈 ((公財)日本オリンピック委員会 専務理事)  
〃 小 谷 実 可 子 ((公財)日本オリンピック委員会 理事)  
〃 水 野 英 人 ((公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長)  
※順不同

対 象 者 : 国内外を問わず我が国の競技スポーツの指導者および地域スポーツの指導者

受賞者及び選考理由:

### 【ミズノ スポーツメントール賞 ゴールド】

鈴木 陽二 (すずき ようじ) 氏 69歳 (1950. 3. 9生)

(日本水泳連盟/セントラルスポーツ株式会社 常務取締役・競技強化部長)

半世紀に渡り指導に携わり、数多の所属選手をオリンピック・世界選手権のメダリストに育成。1988年ソウルオリンピックにおいて鈴木大地氏の担当コーチとして金メダル獲得以来、アトランタ・シドニー・アテネ・北京・ロンドン・リオデジャネイロ各オリンピック競技大会の全てにヘッドコーチあるいはコーチとして参加。日本代表コーチとして数々の国際大会に帯同、日本水泳の黄金期を築きあげ、水泳界にとって唯一無二の存在。また2019年の世界選手権においても、松元克央の水泳界初の200m自由形銀メダル獲得に大きく貢献した。

#### 【指導(サポート)した主な選手】

松元 克央	'19	世界選手権大会 200m 自由形 2位
古賀 淳也	'09	世界選手権大会 (ローマ) 男子 50m 背泳ぎ 1位
森田 智己	'04	第28回オリンピック競技大会(アテネ)男子 100m 背泳ぎ 3位
稲田 法子	'03	世界選手権大会 (バルセロナ) 女子 50m 背泳ぎ 3位
岩崎 恭子	'92	第25回オリンピック競技大会 (バルセロナ) 女子 200m 平泳ぎ 1位
鈴木 大地	'88	第24回オリンピック競技大会 (ソウル) 男子 100m 背泳ぎ 1位

### 【ミズノ スポーツメントール賞 シルバー】

武富 豊 (たけとみ ゆたか) 氏 66歳 (1954. 2. 16生)

(日本陸上競技連盟/株式会社天満屋 女子陸上競技部監督)

実業団チームのコーチ・監督として女子長距離・マラソン種目で多数のオリンピック、世界選手権を始めとした日本代表選手、入賞選手を育成。また多くのオリンピック、世界選手権等に女子

マラソンの代表コーチとして帯同し、チームの枠を超えたサポートにより好成績を収めた。

東京オリンピック選考大会となる「マラソングランドチャンピオンシップ」において前田穂南選手が優勝し、大会内定者を輩出した。

**【指導（サポート）した主な選手】**

前田 穂南	'19	マラソングランドチャンピオンシップ	1位
谷本 観月	'19	世界選手権（ドーハ）女子マラソン	7位
中村 友梨香	'09	世界選手権（ベルリン）女子10000m	7位
坂本 直子	'03	パリ世界選手権 女子マラソン	4位
山口 衛里	'00	第27回オリンピック競技大会（シドニー）女子マラソン	7位

**佐々木 美行（ささき みゆき）氏 63歳（1957. 1. 28生）**

**（岡山県スポーツ協会／スケート コーチ）**

小学校教諭として勤務の傍ら、地域にフィギュアスケートが根付くよう倉敷フィギュアスケティングクラブの組織と活動の基盤をゼロから立ち上げるなど設立に尽力し、27年間にわたり指導してきた。

同クラブでは、子どもたちが楽しく練習できるよう、独自の指導法を取り入れ、基本動作の定着と個性を大切にした指導の両立を実現してきた。また、倉敷市内在住の児童生徒を中心に、4歳児から社会人まで楽しめる日曜スケート教室を開設し、スケートの普及・推進に取り組んでいる。

さらに、岡山県スケート連盟フィギュア部の要職を務め、選手強化だけでなく役員・審判の育成、練習環境整備、組織体制の整備、選手発掘育成など全般に関わっている。2011年からは岡山県スポーツ協会スポーツ医・科学委員会委員を務め、女性特有の健康障害への対策にいち早く取り組むなど、県内の女性アスリート支援をはじめ、スポーツの普及・推進に大いに活躍している。

**三枝 啓巳（さいぐさ ひろみ）氏 77歳（1942. 9. 20生）**

**（日本障がい者スポーツ協会／車いすバスケットボール 公認障がい者スポーツ指導員、  
公認スポーツコーチ）**

1971年より山口県車いすバスケットボール連盟で車いすバスケットボールの指導に携わってから、これまで48年間にわたり様々な環境で指導してきた。

1971年に山口県内で初めて車いすバスケットボールチームを作り、県内の車いすバスケットボールの普及活動を行い、県内の障がい者スポーツ振興の先駆けとなった。その後も、1972年の山口県障害者スポーツ協会や1979年の中国地区車いすバスケットボール連盟といった、山口県内及び中国・四国ブロックにおける数多くの競技団体等に所属し、様々な環境で指導している。その結果、全国大会出場に何度も導くなど、地域のみならず競技力向上にも貢献している。

また、これまでに数多くの団体において役職を歴任し、様々な立場で活躍している。特に、中国四国地区障害者スポーツ指導者協議会や日本知的障がい者フットベースボール連盟の要職を務め、山口県にとどまらず、ブロックから全国規模の組織づくりの支援及び指導者の活躍の場の環境整備にも尽力するなど、障がい者スポーツ発展に大きく貢献した。

**【ミズノ スポーツメントール賞】**

**永井 祐司（ながい ゆうじ）氏 56歳（1963. 10. 14生）**

**（日本ホッケー協会／ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社  
ソニーHC BRAVIA Ladies 監督）**

日本ホッケー界の歴史において、唯一男女日本代表チームの監督・コーチに就任した実績を持ち、ロンドンオリンピックではコーチとして、リオデジャネイロオリンピックでは監督として帯

同した。リオデジャネイロオリンピック予選では急遽監督に就任したが、8か月でチームを創り上げ4大会連続の出場権を獲得、アテネからリオデジャネイロまで4回のオリンピックには総数64名中、延べ26名（国内チーム最大選手数）をソニーから送り込んだ。

【指導（サポート）した主な選手】

永井 友理、永井 葉月 '18 第18回アジア競技大会（ジャカルタ・パレバパン）1位

中川 未由希、永井 友理、永井 葉月

'16 第31回オリンピック競技大会（リオデジャネイロ）10位

千葉 香織、山本 由佳理、中川 未由希

'12 第30回オリンピック競技大会（ロンドン）9位

三浦 恵子、千葉 香織、山本由佳理、中川 未由希

'08 第29回オリンピック競技大会（北京）10位

'04 第28回オリンピック競技大会（アテネ）8位

木村 典代（きむら みちよ）氏 51歳（1968. 4. 3生）

（日本卓球協会／高崎健康福祉大学 健康福祉学部 教授／  
スポーツ医・科学委員会 委員・栄養部門責任者）

卓球を通じてスポーツ栄養に関する知見の発信を続け、日本のスポーツ栄養界の第1人者（2019年～日本スポーツ栄養学会会長）として、1999年から現在まで栄養士として小学生からナショナルチーム（NT）まで広範囲で20年以上継続的にサポート。1999年スポーツ医・科学委員会委員に就任、スポーツ栄養学を用いた選手強化体制を構築、国際卓球連盟医・科学委員会にて、選手の食事環境改善の為の提案を行うなど日本の国際的なプレゼンス向上に大きく寄与した。東京オリンピックでの金メダル獲得悲願達成に向け栄養サポートを中心に活動している。

【指導した主な選手】

伊藤 美誠・早田 ひな '19 世界卓球選手権大会ベスト大会（個人戦）女子ダブルス2位

佐藤 瞳・橋本 帆乃香 '19 世界卓球選手権大会ベスト大会（個人戦）女子ダブルス3位

石川 佳純・吉村 真晴 '19 世界卓球選手権大会ベスト大会（個人戦）混合ダブルス2位

長崎 美柚 '19 世界ジュニア卓球選手権大会 女子シングルス1位

木原 美悠・長崎美柚 '19 世界ジュニア卓球選手権大会 女子ダブルス1位

木原 美悠・宇田幸矢 '19 世界ジュニア卓球選手権大会 混合ダブルス1位

木原 美悠・長崎 美柚 '19 ITTF ワールドツアーグランドファイナル 女子ダブルス1位

菅原 智恵子（すがわら ちえこ）氏 43歳（1976. 8. 15生）

（日本フェンシング協会／女子フルーレコーチ）

現役中にチームメイト且つコーチとして、西岡詩穂選手を初のオリンピック出場に導く。自身も北京・ロンドンで日本人歴代最高位タイの7位入賞を果たす。2018年ユースオリンピックで上野優佳選手の金メダルを獲得に貢献、日本代表、準代表選手が社会人・大学生・高校生と幅広く在籍する中、トップ選手への一貫指導を行い、アジア選手権では日本女子フルーレチームを初優勝に導いた。アジア選手権から引き続いたチーム指導で、ワールドカップ団体戦において女子フルーレチームを12年ぶりのメダル獲得に導く。

【指導（サポート）した主な選手、チーム】

女子フルーレチーム '19 アジア選手権1位

'19 サンモールワールドカップ3位

上野 優佳 '18 第3回ユースオリンピック競技大会（ブエノスアイレス）1位

西岡 詩穂 '16 第31回オリンピック競技大会（リオデジャネイロ）ベスト16

永島 宏泰 (ながしま ひろやす) 氏 47歳 (1972. 9. 2生)

(日本クレ射撃協会/JOCアシスタントナショナルコーチ)

オリンピック・アジア・ユニバーシアード等総合競技大会やIF主催の国際大会等に監督として帯同し、選手への指導とサポートを担当。1998年より歴代オリンピック(中山由起枝、井上恵、石原奈央子選手等)を指導し入賞に導いた。競技団体だけでは出来ない分野において、積極的にJOCをはじめとする各組織と連携を図り、アスリート支援体制を構築。監督として帯同した2019年第14回アジア射撃選手権大会において、中山選手の銅メダルと共に、女性として柔道の田村亮子選手に並ぶ5回目となる東京2020オリンピックへの出場権獲得に貢献したことは、長年のサポートの結果である。我が国で数少ないISSF認定Cコース指導者資格と国際ジュリー資格を取得し、日本を代表する指導者としてのブラッシュアップをし続けている。

【指導(サポート)した主な選手】

折原 梨花	'19	第30回ユニバーシアード競技大会(ナポリ)	4位
	'17	国際ジュニア射撃グランプリ ドイツ大会	1位
中山 由起枝	'19	第14回 アジア射撃選手権大会	3位
	'10	第16回アジア競技大会(広州)	1位
	'08	第29回オリンピック競技大会(北京)	4位
横内 誠	'17	アジアクレ選手権大会(カザフスタン)	3位
井上 恵	'04	第28回オリンピック競技大会(アテネ)	5位

小澤 秀樹 (おざわ ひでき) 氏 58歳 (1961. 10. 12生)

(神奈川県体育協会/陸上競技等 スポーツドクター)

2006年から神奈川県体育協会スポーツ医科学委員会委員を務め、これまで14年間にわたりスポーツドクターとして活動してきた。

国民体育大会では、県選手団帯同ドクターとして、2007年度の秋田国体から13年連続で参加し、選手団の医療サポートや選手が安心して競技に取り組める環境を整えるなど、国体の上位成績の獲得に貢献した。

また、医科学サポートとして、大学では、医師をはじめとする医療スタッフを対象に「スポーツドクターの役割と機能」や「スポーツ熱中症」の講義を行うとともに、2012年度から現在に至るまで「湘南国際マラソン」におけるゴール前救護室で救護班のリーダーを務めている。

2014年から2018年に同協会のスポーツ医科学委員会委員長及び理事を務め、加盟競技団体や地域団体、学校体育団体に対し、スポーツ医学の重要性を説き、県内のスポーツ医学の普及振興に力を注いだ。

併せて、大会救護のあり方などについて、県医師会と調整・連携を図り、神奈川県における大会・イベント関係時の救急救護システムの確立を図り、神奈川県体育協会のスポーツ医学振興事業の計画・実行の中心的役割を担っている。

藤原 三郎 (ふじわら さぶろう) 氏 69歳 (1950. 7. 26生)

(山梨県スポーツ協会/スポーツ全般 スポーツドクター)

1997年から、ヴァンフォーレ甲府のチームドクターとしてメディカルサポートを行うほか、アンチ・ドーピングに関する指導を行ってきた。

また、1995年から国民体育大会候補選手に対するメディカルチェック(整形外科分野)を担当し、2007年に山梨県体育協会スポーツ医・科学委員会委員に就任後も継続的に実施している。

さらに、国体への帯同、国体選手に対する怪我の予防やコンディショニングの重要性についての講義を行うほか、スポーツ少年団認定員養成講習会で「スポーツ指導者に必要な医学的知識」の講師を務めるなど、山梨県内のスポーツ推進に貢献している。

**梅景 康裕 (うめかげ やすひろ) 氏 63歳 (1956. 8. 2生)**

**(滋賀県スポーツ協会/野球等 ジュニアスポーツ指導員)**

これまで18年間にわたり、大宝西ファイヤーズスポーツ少年団で少年野球の指導を行ってきた。同少年団では、子どものレベルに応じた練習や飽きさせない練習メニューの考案など、常に工夫を施した指導に当たっている。また、技術指導だけでなく、栗東市主催のロード競技三大会の事業運営の協力と少年団への参加促進を行い、地域河川愛護活動、愛校活動(グラウンド清掃)にも熱心に取り組んでいる。

さらに、栗東市スポーツ少年団の要職を歴任し、日独交流の受入れやアクティブ・チャイルド・プログラム活動の実施などスポーツ少年団の活性化に取り組んでいる。併せて、栗東市スポーツ推進委員を長きにわたり務めるとともに、栗東発祥のニュースポーツ「スローイングビンゴ」の普及啓発にも尽力している。

**藤井 久美 (ふじい くみ) 氏 57歳 (1962. 9. 3生)**

**(山口県体育協会/剣道 コーチ)**

1989年に玉祖少年鍛錬会で指導をはじめて以来、26年間にわたり各所で剣道指導に携わってきた。

各種資格と経験を活かした適正な指導、勝負のみならず基本・礼法を重んじた人間教育を行う指導、未永く精神的・体力的増進を図る生涯剣道を目指した指導を実践している。

また、先生の指導を素直に受け入れられない児童や、いじめにより精神的にダメージを受けている子どもに対して、剣道の稽古を通じてきめ細やかな指導を行うなど、剣道技術の向上のみでなく、地域における青少年の健全育成に寄与している。

看護師資格を保有しており、2007年から防府市体育協会、山口県高等学校体育連盟、山口県剣道連盟、防府市剣道連盟などが実施する数々のスポーツ大会において、医療スタッフのボランティアとして活躍している。

このように剣道指導をはじめ、医療スタッフとしての安全対策を通じて、防府市地域のスポーツの普及・推進に多大なる貢献をしている。

**釜 辰信 (かま たつのぶ) 氏 55歳 (1964. 6. 3生)**

**(熊本県体育協会/空手道 コーチ)**

1996年に海王塾スポーツクラブに携わり、これまで23年間にわたり指導してきた。

同クラブにおいて、幼児から高齢者まで多世代に対して、礼儀作法や護身術等も含めた空手道の指導を行っており、全国大会優勝者やアジア大会優勝者も輩出している。

また芦北町において、生涯教育の一環として、毎週木曜日に20代から70代を対象とした空手道の指導を継続しており、参加者の健康づくり、生きがいづくりに大きく貢献している。

2019年から葦北郡空手道連盟の会長を務め、熊本市、水俣市および芦北町で空手道教室を開催。特に芦北町では行政、住民、商店街などの声援を得て「空手道の町 葦北」の発展に寄与している。

以上

(お問合せ先)

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局	内橋・澤井	TEL. 03 (3233) 7009
ミズノ株式会社 コーポレートコミュニケーション部	小山・山本	TEL. 03 (3233) 7037